

## 令和2年豪雨災害における、作業療法士としての関わり

### 【令和2年7月豪雨の概要】

私が勤務する介護老人保健施設リバーサイド御薬園（以下、御薬園）のある人吉・球磨地域は、令和2年7月4日、大量の雨によって球磨川やその支流が氾濫し、建物や橋の破壊、流失、浸水の被害を受け、人的被害をも招く大災害に見舞われた。御薬園自体は大きな被害を免れたものの、被災した多くの住民が避難所での生活を余儀なくされた。

### 【災害支援から復興リハへ】

#### ◆ 発災当初

御薬園は、球磨地域リハビリテーション広域支援センターでもあり、尚且つ、JRATの先遣隊としても、発災翌日から各市町村の避難所を回って、状況の把握や現場の保健師との情報交換、高齢者への声かけ、健康チェック、体操指導を開始した。その後も、少しずつ支援体制を整えながら避難所への支援を行った。（写真1）

#### ◆ 発災から1か月半

仮設住宅への入居が始まり、避難所の支援と並行して、仮設住宅の改修が必要な住民へ初期改修評価の支援を行った。

#### ◆ 発災から3か月

避難所の支援から、仮設団地の支援に移行していった。現在も、復興リハビリテーションセンターに登録した施設のリハ専門職と、仮設団地への体操支援を行っている。（写真2）

### 【コロナ禍の支援】

今回の支援では、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に特に注意した。具体的には、マスクの着用や検温、支援前後の手指洗浄および消毒といった支援者側の対策、また会場の換気や人と人との距離の確保、参加者へのマスク着用の促し等である。支援先の感染に加えて、所属施設へ感染を持ち込むリスクがある事も念頭に置いて、できる限りの対策を行った。

### 【作業療法士の役割】

復興リハは、住民同士の繋がりを作り、最終的には住民主体の活動へ移行していくことを目的としている。参加者が主体的にコミュニティ作りを行えるよう裏方として支えることは、作業療法士の得意とすることである。また、身体の不調や生活場面の困りごと等の相談に対しても作業療法士の専門性が発揮できると考える。

### 【支援を振り返って】

今回の水害はコロナ禍の中で発生した災害で、通常災害支援とは違い、より徹底した感染症予防対策が必要であったり、他圏域や県外からの協力を求めにくい状況だったり、経験したことのない状況の中で対応しなければならない事がたくさんあった。

まだまだ復興は道半ばであり、新型コロナウイルス感染症も落ち着かない中で、地域リハビリテーション広域支援センターの立場としてだけでなく、熊本県作業療法士会人吉球磨ブロック長、さらには一人の作業療法士として、withコロナの時代に自分が暮らす地域の復興について何ができるのか、常に模索しながら支援に携わっていきたい。



（写真1）避難所での支援の様子  
避難所を回って声をかけ、健康チェックや体操を行った。



（写真2）仮設団地での支援の様子  
週1回、仮設団地内の集会所で、介護予防サポーターとともに体操を行っている。